

はしがき

一橋大学創立 150 年史準備室長

江夏 由樹

本学の創立 140 周年を記念する講演会「一橋大学学問史（1） 経済学と近現代社会」が昨年 10 月 25 日に兼松講堂で開催された。鈴木興太郎名誉教授、西沢保名誉教授、江夏が講演を行ったが、本号はその講演記録を集録することができた。鈴木、西沢の両名誉教授に深く感謝の意を表したい。さらに、本号は尾高煌之助名誉教授、田崎宣義名誉教授、大場高志氏（学園史資料室）・竹内雄介氏（一橋いしぶみの会世話人）・笹口健太氏（一橋新聞部）、酒井雅子氏（如水会）からも一橋大学の歴史についての貴重な論稿を頂戴することができた。一編一編が大変興味深い問題を取り上げており、今後の大学史編纂にとっての重要な論点・課題を提示していただいたと言えよう。これら論稿をご寄稿いただいた先生方に深く感謝申し上げたい。なお、来年度以降も創立 150 周年に向けた大学主催の講演会が開催される予定であり、本誌はその記録を掲載していく予定である。

現在、多くの大学で法人文書・歴史文書の蒐集・整理・編纂を行う文書館の設立が進められている。文書館の設立とその活動が大学史編纂の重要な基礎となることは言うまでもない。東京地区の国立大学法人でもこれまでに東京大学、東京外国語大学、東京工業大学などで大学文書館が正式に設置され、その他の大学でもその準備が着々と進んでいる。一橋大学では小平に文書館設置のための十分なスペースが確保されているものの、その設立の準備作業は遅れていると言わざるをえない。創立 150 周年までわずかに 9 年が残されているにすぎない。学園史資料室・150 年史準備室の維持・拡充、そして、一橋大学文書館の設立のための体制作りは急務である。そのために、この News Letter が学園史編纂、文書館設立を目指した情報交換の場としてますます機能していくことを期待したい。

本号の編集・刊行には、前号と同様、一橋大学附属図書館のスタッフに大変お世話になった。また、記念講演のテープ起しなどについては、総務部のスタッフにお世話いただいた。記して感謝の意を表したい。